

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 伍福会 びいちゃむ・第2びいちゃむ(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	令和6年 11月20日		～	令和6年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月20 日		～	令和6年 12月31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や関係機関との連携をしっかりと行っている。	保護者の方には連絡帳を使い利用時は毎回やり取りをさせて頂き、年2回の面談を行っている。また、保育園や相談員の方・関係機関とも適宜やり取りをさせて頂いたり会議行うことで、事業所以外の視点も踏まえながら本人支援をするように心がけている。 同法人内に放課後等デイサービス事業所・生活介護事業所・グループホームなど多様な事業所があり色々な視点から支えることが出来き、将来を見据えた連携を取りやすい。	保護者や関係機関の方には、要望がある時に見学に来て頂いているが定期的な見学会などの取り組みを行う。また、保護者のニーズに合わせた勉強会の開催。
2	若手職員から子育て経験のある主婦職員・看護師・現場経験が豊富な職員が集まっています。様々な視点から利用者個々のニーズや特性課題に合わせた支援を行っている。	個々のニーズや特性に合わせて5領域を踏まえた個別支援計画書を作成し、チームで共有している。また、毎日のMTGや月に1回チームミーティング行うことで直接的な支援共有・課題改善に向けた話し合いだけでなく会議内容の共有や環境整備についての改善点をあげ、よりよい支援につなげている。	内部ではミーティングや職員会議の際に勉強会を開催していく事。また、各職員に内部・外部の研修会への積極的参加の促しを行い、職員の研鑽行う。
3	利用児童の過ごすフロアが1階と2階にあることで子ども達の特性や発達・相性などを考慮して安心できる環境を整えられます。	施設が広くバリアフリー化されているため様々な障害を持たれている方にも対応できる。また、空間を仕切ることができるためその場面に応じた環境設定や個室を作ることが出来る。同じ敷地内に放課後等デイサービス事業所・生活介護事業所・グループホームなど多様な事業所があり移行支援行いやすい。	同法人内に放課後等デイサービス事業所・生活介護事業所・グループホームなど多様な事業との連携強化行い良い面をさらに取り入れていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員のスキルが個人差がある(専門性+現場体験)	現場経験が豊富な職員が新人職員や経験が浅い職員への学ぶ機会が少ない為、現場経験が豊富な職員が新人職員や経験が浅い職員と一緒に現場の支援を行うところから始めます。事前準備や把握しておかなければいけない支援者としての心構えや利用者理解を深めていくポイント等を見て知って学んでもらえるコーチングを行っていきます。	コーチングで学んでいただきながら並行して、内部ではミーティングや職員会議の際に勉強会を開催していく事。また、各職員に内部・外部の研修会への積極的参加の促しを行い、職員の研鑽行う。
2	地域とのつながり	実際職員からは必要なのか、難しそうだと声があります。	イベントの際に地域の店舗を利用やボランティア団体・近隣の高校生や大学生への参加促しを図る事から始める。一緒にできる活動の企画検討行う。
3	事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアルが策定され保護者へ説明されているが認知度向上が必要。	策定されているが周知の回数が少ない。	各マニュアルの定期的な公表と取り組んだことへの報告を随時行う。